

自治体職員（栃木県芳賀町・茂木町）の自衛隊隊内生活体験支援を実施 ～不安や緊張を克服し、自己成長の糧とする～



①緊張しながらも降下に果敢に挑戦する様子



②救急法及び負傷者搬送



③仲間と励まし連携しながら臨む姿



④生活体験終了！達成感で満ち溢れた笑顔がこぼれる

自衛隊栃木地方協力本部真岡募集案内所（所長 古川3陸佐）は、6月18日（火）、19日（水）の両日、宇都宮駐屯地で実施された芳賀町職員12名及び茂木町職員8名の合計20名を対象とした『自衛隊隊内生活体験』の支援を行った。

生活体験は、自衛隊の厳しい訓練や日常生活の様子を体験することで自衛隊と地域の連携や団結力の重要性等を習得することを目的として各団体が実施しているものである。

生活体験では、初日に体験入隊式からスタートし、基礎訓練体験（基本教練、救急法及び特殊降下体験）、二日目に想定訓練体験（災害派遣）のほか、隊員と同じような日課の起居宿泊を体験した。迷彩服を着用した参加者達は、当初自治体業務とは大きく異なる未知の世界での体験プログラムに大きな緊張と不安を抱いている様子であったが、体験を進めるうちに担当自衛官の優しい雰囲気や集団生活に慣れ、楽しみながら体験している様子が見えられた。

特殊降下体験では、高所7mの訓練塔からの降下に果敢に挑戦した。2回目の降下を終えた後は「体力・精神的にも大変でしたが、自分の限界に挑戦しました。無事に降下することができ達成感を得ることができました！」と笑顔を見せる参加者もいた。

二日目は災害派遣活動の現場を想定し、初日の救急法を加えた行進を含む総合的体験を行った。炎天下ではあったが、参加者同士がお互いに声をかけ、励まし合いながら終了することが出来た。参加者からは「目標達成の為に仲間と協力し、連携をすることの重要性を改めて学びました。この経験を活かし防災や地域の安全対策に積極的に役立てていきたいと思えます」等の声があった。この隊内生活体験を通じて多くの参加者が、最初に抱いていた不安や緊張を克服し、自己の成長へと繋げることができた。

真岡募集案内所は「今回は異なる自治体が一緒に体験することで、地域間の連携や協力体制の構築にも繋げる機会ができた。今後も、自衛隊隊内生活体験の活用により自衛隊の役割や任務についての理解と自治体の地域防災力向上に繋げてもらえるよう支援していきたい」としている。